



グローバル・デジタルヘルスケア株式ファンド

(年1回決算型・為替ヘッジあり) / (年1回決算型・為替ヘッジなし) /
(年2回決算型・為替ヘッジあり) / (年2回決算型・為替ヘッジなし)

足もとの運用状況と今後の見通しについて



ファンド
紹介動画

<当レポートでご紹介する内容>

②今後の見通し

①足もとの投資環境と運用状況について

③組入銘柄のご紹介(2024年9月末時点)

①足もとの投資環境と運用状況について

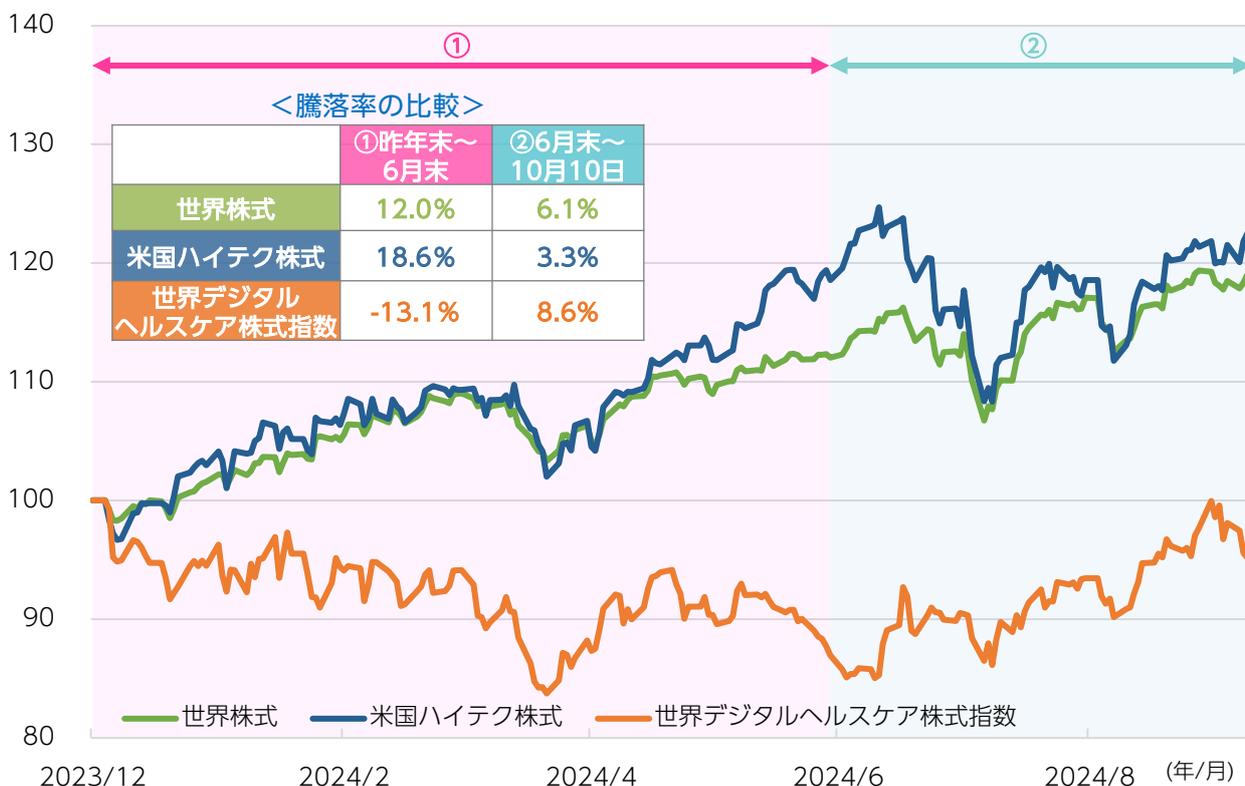
7月以降、世界デジタルヘルスケア株式指数は上昇に転じる

2024年前半の世界の株式市場は、昨年からの流れを引き継ぎ「超大型」の米国ハイテク株式が上昇をけん引していましたが、7月以降は米国ハイテク株式の上昇の勢いが落ち着く一方で、世界株式が高値を更新する展開となっています。

世界デジタルヘルスケア株式指数は、金利の高止まりを嫌気し年初から下落傾向にありましたが、7月以降は上昇に転じ、以降のリターンは米国ハイテク株式や世界株式を上回っています。

その背景には、7月以降に発表された米国のインフレ指標が想定以上に落ち着きを示す結果となったことがあります。これにより、米国の利下げ開始が意識され、長期金利が低下しました。金利低下により、デジタルヘルスケア企業の資金調達環境の改善やデジタル医療関連の投資拡大が期待されると考えられ、関連銘柄に見直し買いが入りました。

■ 代表的な株価指数の推移



データ期間：2023年12月29日～2024年10月10日(日次)、2023年12月29日を100として指数化
出所)ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

世界株式：MSCIワールド・インデックス、米国ハイテク株式：ナスダック総合指数、世界デジタルヘルスケア株式指数：Solactive Telemedicine & Digital Health インデックス(すべて配当込み、米ドルベース)

●当資料は、ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシーの情報をもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成したものです。当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料に記載されている投資リスク、ファンドの費用等を必ずご覧ください。<2024-SA108>

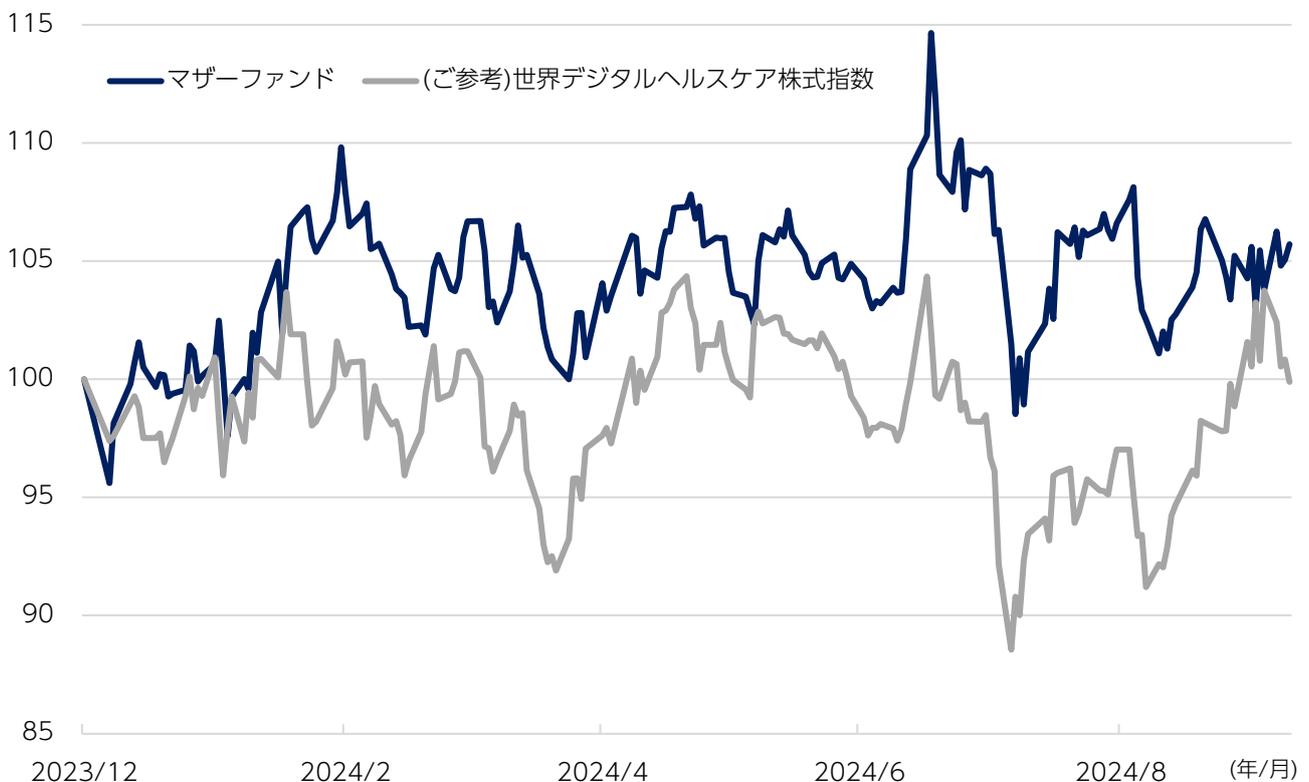
①足もとの投資環境と運用状況について

足もとマザーファンドは概ね横ばいで推移、長期的な視点で銘柄を選定

当ファンドのマザーファンドの基準価額は、7月以降の円高進行がマイナス要因となったものの、組入銘柄の株価上昇がこれを相殺し、概ね横ばいで推移しています。また、今年に入り世界デジタルヘルスケア株式指数を上回って推移しています。

当ファンドは革新的なヘルスケア製品やサービスを創出し、中長期的な視点から高い成長が見込まれるデジタルヘルスケア企業を選定しています。現在は、がん治療において注目が高まっている画像診断や放射性医薬品を手掛けるランセウス・ホールディングス(組入1位)や、医療分野のデジタル化と医師の業務効率化に寄与するソリューションを提供するドキシミティ(組入2位)などを高い比率で組み入れています(2024年9月末時点)。

■マザーファンドの基準価額(信託報酬等コスト控除前)の推移



データ期間：2023年12月29日～2024年10月10日(日次)、2023年12月29日を100として指数化
 世界デジタルヘルスケア株式指数：Solactive Telemedicine & Digital Health インデックス(配当込み、円ベース)
 上記はマザーファンドの運用実績(信託報酬等コスト控除前)であり、当ファンドの運用実績ではありません。また、上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

②今後の見通し

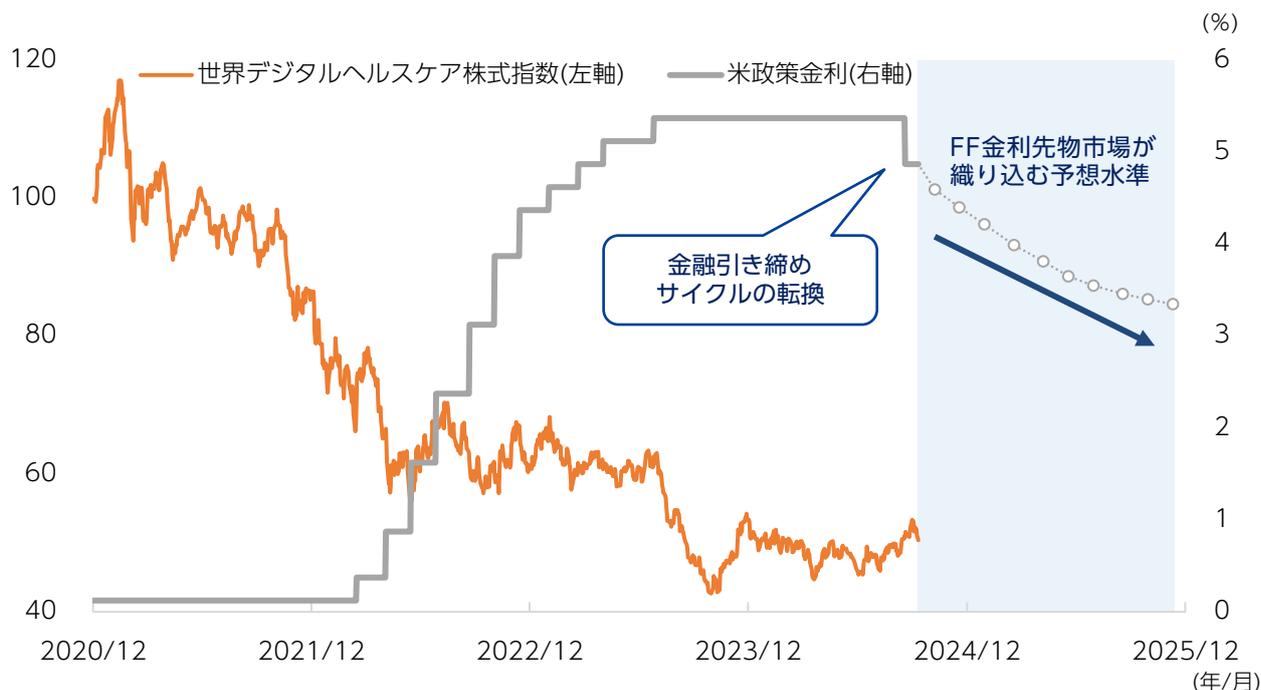
金利環境の変化によるパフォーマンス向上期待

現在、2022年以降続いていた金融引き締めサイクルが転換点を迎えています。ここ数年の高金利環境は、収益化の初期段階にある企業にマイナスの影響を及ぼすため、このような企業が多く含まれる小型株は大型株に比べ出遅れ感がありました。しかし、今年9月にFRB(米連邦準備制度理事会)が利下げを決定した後、小型株は大型株に対して大きく反発する場面が見られました。

また、高金利環境はデジタルヘルスケア企業が顧客とするバイオ関連企業や病院などの収益を悪化させる要因の一つとなっていました。足もとは金利低下の影響を受けて改善の兆しが見え始めています。1,300以上の米国の病院データを集計したレポートによると、米国の病院の収益性は2024年に顕著な改善傾向を示しており、営業利益率は2024年8月に4.2%と、約1年前と比較すると2倍程度上昇しています(2023年9月：2.3%)。

こうした金利環境の変化や病院の収益改善は、当ファンドが投資対象とするデジタルヘルスケア企業に対する市場の見方に変化をもたらす可能性があり、株価にとって追い風となることが期待されます。

■世界デジタルヘルスケア株式指数と米政策金利の推移



データ期間：＜米政策金利＞実績は2020年12月31日～2024年10月10日(日次)、予想値は2024年11月から2025年12月までの各FOMCの終了時点、＜世界デジタルヘルスケア株式指数＞：2020年12月31日～2024年10月10日(日次)
 出所)ブルームバーグ等のデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 世界デジタルヘルスケア株式指数：Solactive Telemedicine & Digital Health インデックス(配当込み、米ドルベース)、2020年12月31日を100として指数化、米政策金利：FFレート誘導目標(誘導目標レンジの中央値を表記)、予想値は2024年10月現在のFF金利先物市場が織り込んでいるFF金利予想水準
 当ファンドの運用実績ではありません。

②今後の見通し

ヘルスケア業界を取り巻く長期的な構造変化

当ファンドでは、以下のようなヘルスケア業界の長期的な構造変化がもたらす投資機会に着目し運用を行っています。

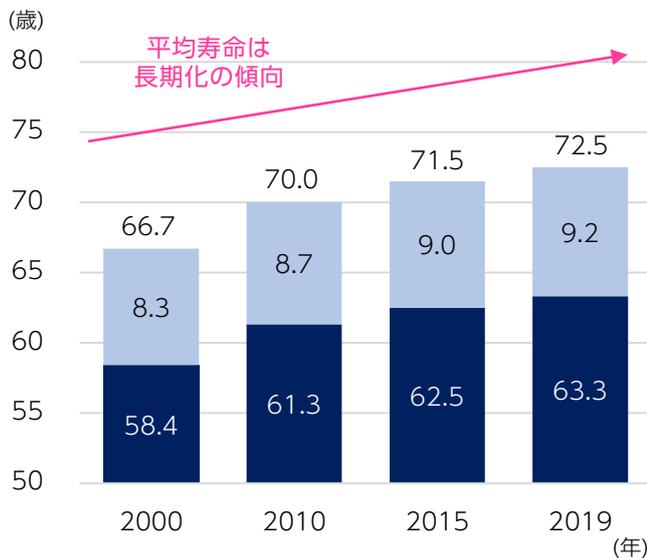
◆長寿化とともに高まる健康への取り組み

世界的に平均寿命は延び続けており、健康な期間(健康寿命)を延ばすための取り組みがますます重要になっています。

◆求められる医療の効率化

長寿化にともない医療支出は増加傾向にあり、個人や社会福祉システムにとって大きな負担となっています。医療の効率化を進めることで、より効果的な分野への資源の再配分が可能になると考えられており、AI(人工知能)の活用やデジタルソリューションの普及が期待されています。

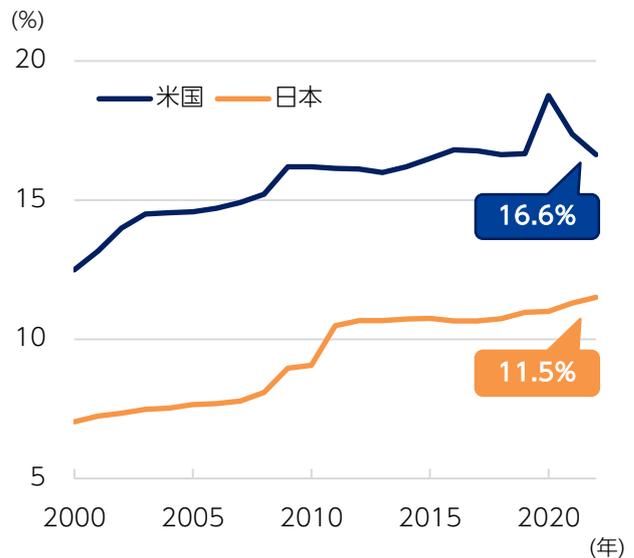
■世界の平均寿命の推移



- 健康寿命から平均寿命までの期間(疾病に罹患する平均年数)
- 健康寿命

出所) WEF(世界経済フォーラム)の資料をもとにニッセイアセットマネジメント作成

■日米における医療支出(対GDP比の推移)



データ期間：2000年～2022年(年次)

出所) OECD(経済協力開発機構)のデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

②今後の見通し

◆AIのヘルスケア分野への活用

ヘルスケア分野におけるAIの活用は急速に進展しており、患者のケアや医療の効率化に大きな影響を与えています。以下に、いくつかの主要な活用事例をご紹介します。

- AI画像診断

CTスキャンやMRIの画像をAIが解析することで、がんなどの病気を高精度で特定できるようになり、医療画像の分析において大きな進歩がみられています。この技術により、人間の医師による診断よりも正確な診断が可能となり、病気の早期発見に貢献しています。

- 創薬

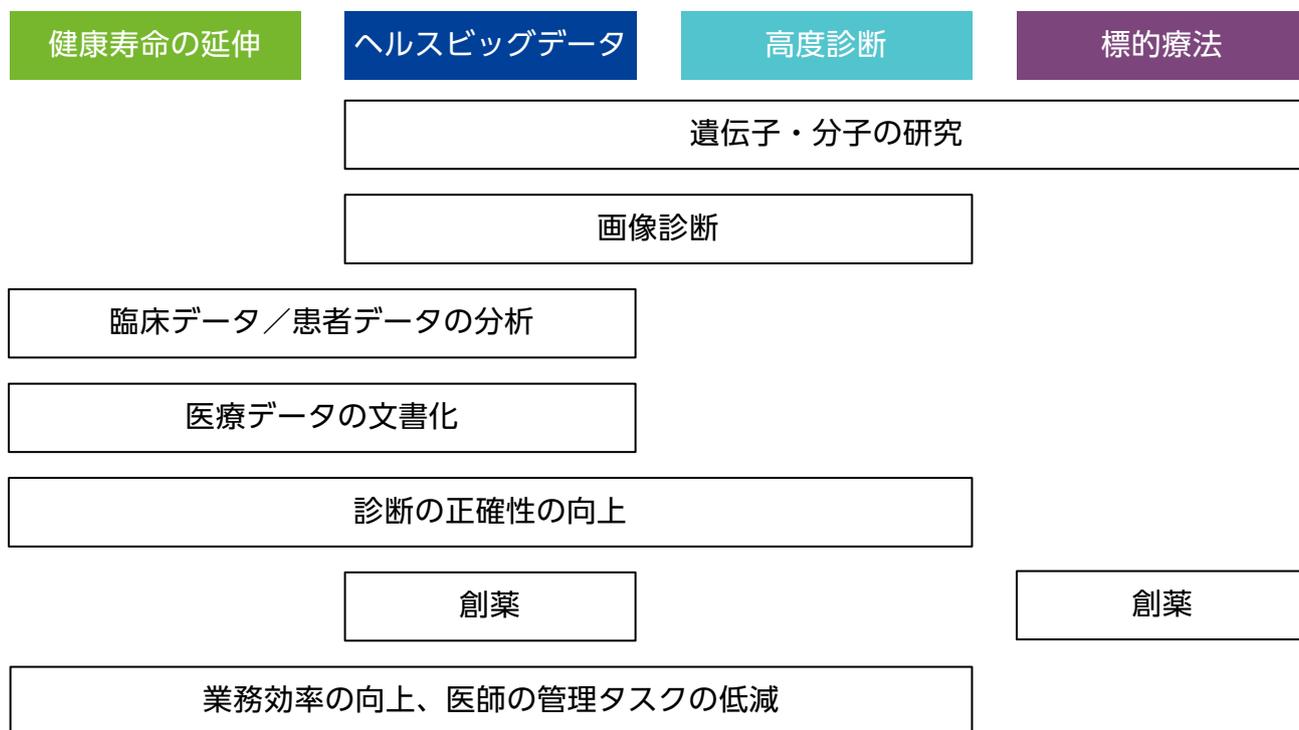
AIの大量のデータ処理能力と高度な分析・推論能力を活用することで、従来の手法と比較して成功率の向上や開発期間の短縮、コスト削減が期待されます。

- 医療業務の効率化

AIを活用することで、診療報酬請求やオンラインでの簡単な問い合わせ対応などの事務作業を自動化することができます。これにより、医療従事者の負担が軽減され、より多くの時間を患者ケアに充てることが期待されています。

当ファンドが着目する4つの成長分野(健康寿命の延伸／ヘルスビッグデータ／高度診断／標的療法)においても、AIの活用が様々な分野にわたってみられています。

■4つの成長分野におけるAIの活用事例



出所)ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシーの資料をもとにニッセイアセットマネジメント作成
上記はイメージ図です。

②今後の見通し

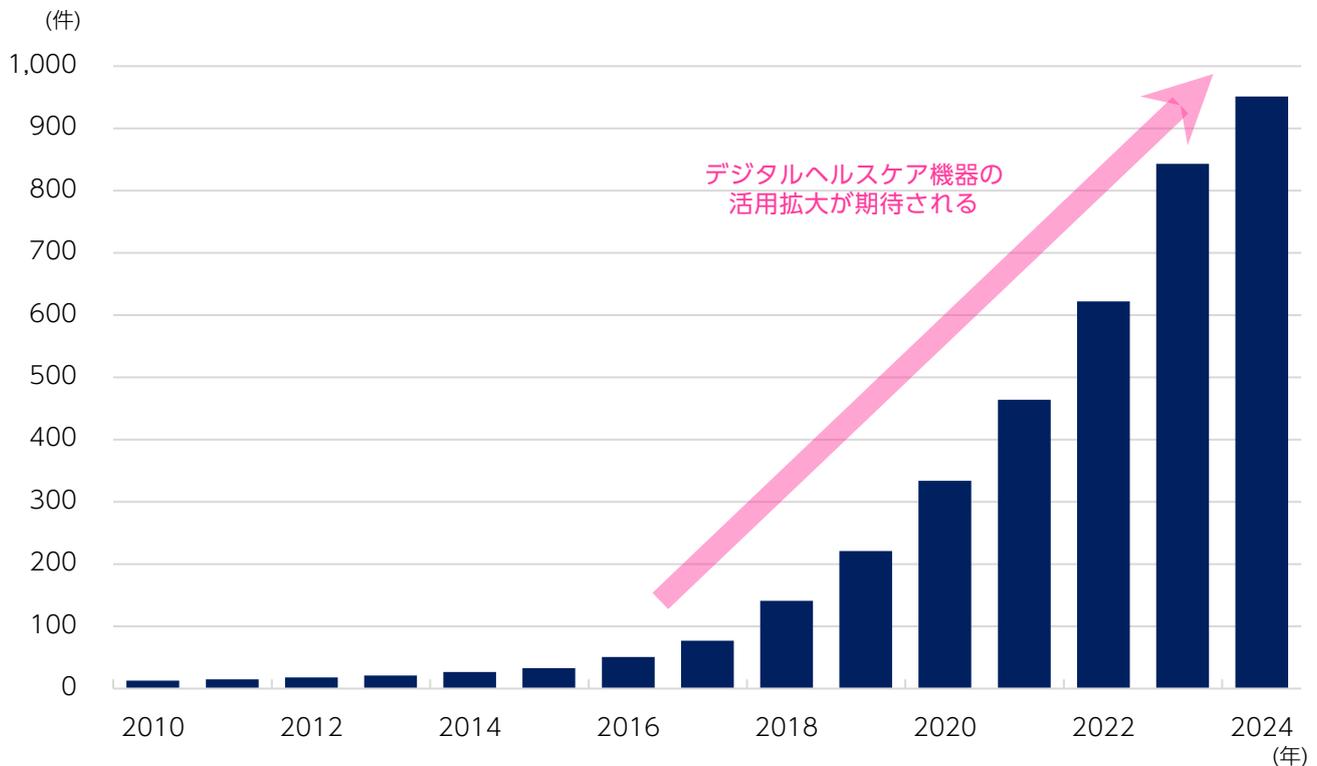
◆AIのヘルスケア分野への活用

このように、AIはヘルスケアの様々な分野で活用が進んでおり、実際に医療機器やサービスへの組み込みが実現しています。FDA(アメリカ食品医薬品局)によるデジタルヘルスケア機器の承認件数は飛躍的に増加しており、特に2020年以降は年間100件を超える承認が行われるなど、急速に拡大しています。

今後もAIの活用はさらに進むと予想され、高度な技術を持つデジタルヘルスケア企業への注目が高まることが期待されます。

当ファンドでは、引き続き革新的な製品・サービスを創出し、ヘルスケア産業の変革をリードすることが期待されるデジタルヘルスケア企業への厳選投資を行う方針です。

■FDAによるデジタルヘルスケア機器の承認件数(累計)



データ期間：2010年～2024年(年次、2024年は6月時点)
 出所)FDAのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 AIおよび機械学習対応の医療機器をデジタルヘルスケア機器としています。

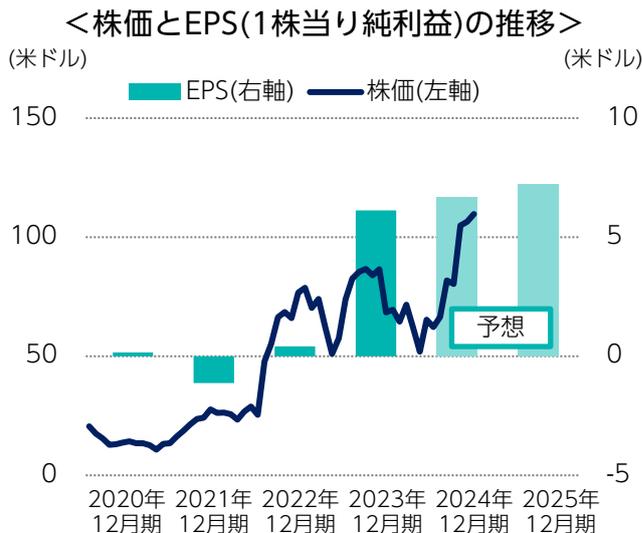
③組入銘柄のご紹介 (2024年9月末時点)

当ファンドでは成長を優先して先行投資を行っているため、現在黒字化の過程にある銘柄も組み入れています。しかし、これらの銘柄は今後、**売上の拡大にともない段階的に黒字化が進むと考えています。**

ランセウス・ホールディングス(米国) 組入比率：6.5%

成長分野	主な事業：造影剤・標的治療薬の開発
高度診断	時価総額：約76億米ドル(中型) 新規上場：2015年6月

- ◆ **陽電子放射断層撮影画像診断(PSMA-PET検査と呼ばれる放射線および画像を用いたがん診断の1つ)に使用する検査薬において、市場のリーダー的存在です。**
- ◆ **同社は、前立腺がんの診断に用いる造影剤(画像診断を容易にするための薬剤)である『ピラリファイ』のFDA承認を2021年に取得しました。**
- ◆ **今後も『ピラリファイ』の強力な成長が見込まれるとともに、同薬が適用可能な市場のさらなる拡大が期待されています。**



アビッド・バイオサービシズ(米国) 組入比率：1.1%

2024年9月新規買付銘柄

成長分野	主な事業：バイオ医薬品の開発・製造
標的療法	時価総額：約7億米ドル(小型) 新規上場：2018年1月

- ◆ **米国を拠点とするCDMO(医薬品製造開発受託機関)であり、**バイオ医薬品企業**などからの依頼を受けて**医薬品の開発と生産を代行**しています。**
- ◆ **過去数年間にわたり設備投資を進めており、生産能力に余力がある企業です。**
- ◆ **米国の下院でバイオセキュア法が可決され、**バイオ関連ビジネスの国内回帰**が予想されており、同社にとって**追い風**となることが期待されています。**



出所)ブルームバーグ、ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシーのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 株価のデータ期間：2019年12月末～2024年9月末(月次)、EPSの予想：2024年10月現在のブルームバーグ集計値
 規模は超大型：時価総額500億米ドル超、大型：同100～500億米ドル以下、中型：同20～100億米ドル以下、小型：同20億米ドル以下、組入比率は対組入株式等評価額比
 上記はマザーファンドの2024年9月末現在の組入銘柄を示したものです。特定の銘柄を推奨するものではありません。

●当資料は、ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシーの情報をもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成したものです。当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料に記載されている投資リスク、ファンドの費用等を必ずご覧ください。

<ご参考> 基準価額・純資産総額の推移 (2024年10月10日時点)

■ 年1回決算型・為替ヘッジあり



■ 年1回決算型・為替ヘッジなし



■ 年2回決算型・為替ヘッジあり



■ 年2回決算型・為替ヘッジなし



データ期間：2021年11月19日<設定日>～2024年10月10日(日次)

上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。基準価額は信託報酬控除後、1万口当りの値です。上記期間において分配金のお支払いはありませんでした。

ファンドの特色

- ① 日本を含む世界各国の株式のなかから、主にデジタルヘルスケア企業の株式に投資を行います。
- ② 株式運用で定評のあるラザード・アセット・マネージメント・エルエルシーが、徹底した調査・分析に基づき投資銘柄を厳選します。
- ③ 「為替ヘッジの有無」と「決算頻度・分配方針」が異なる4つのファンドから選択いただけます。
(年1回決算型・為替ヘッジあり)／(年1回決算型・為替ヘッジなし)／
(年2回決算型・為替ヘッジあり)／(年2回決算型・為替ヘッジなし)

<為替ヘッジの有無>

為替ヘッジあり：組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジ(先進国通貨等による代替ヘッジを含みます)を行い為替変動リスクの低減を図ります。
為替ヘッジなし：組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受けます。

<決算頻度・分配方針>

年1回決算型：年1回決算を行います。信託財産の十分な成長に資することに配慮し、分配を抑制する方針です。
● 毎年11月18日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行います。
年2回決算型：年2回決算を行い、分配金をお支払いすることをめざします。
● 毎年5・11月の各18日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行います。
・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により、分配を行わないことがあります。

■将来の分配金の支払いおよびその金額について、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド(マザーファンドを含みます)は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化(倒産に至る場合も含む)等により、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	<p><為替ヘッジあり> 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替ヘッジを完全に行うことができないと限らないため、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。なお、一部の外貨建資産の通貨に対しては、先進主要国通貨等の他通貨を用いた代替ヘッジを行う場合があります。その際、通貨間の値動きが異なる場合には十分な為替ヘッジ効果が得られないことがあります。また、円の金利が為替ヘッジを行う当該外貨の金利より低い場合などには、ヘッジコストが発生することがあります。</p> <p><為替ヘッジなし> 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。</p>
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。特に、新興国の経済状況は先進国経済と比較して一般的に脆弱である可能性があり、ファンドの資産価値が大きく減少したり、運用方針にそった運用が困難になる可能性があります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

●基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

●当資料は、ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシーの情報をもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成したものです。当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料に記載されている投資リスク、ファンドの費用等を必ずご覧ください。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

その他の留意点

- ファンドは、特定のテーマに絞った株式への投資を行います。したがって、株式市場全体の値動きとファンドの基準価額の値動きが大きく異なる場合、また、より幅広いテーマで株式に分散投資するファンドに比べ基準価額の変動が大きくなる場合があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短時間で手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消する可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- ファンドのお取引に関しては、クーリング・オフ(金融商品取引法第37条の6の規定)の適用はありません。

ご留意いただきたい事項

- 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- 当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む)の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は保険契約や金融機関の預金ではなく、保険契約者保護機構、預金保険の対象とはなりません。証券会社以外の金融機関で購入された投資信託は、投資者保護基金の支払対象にはなりません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なしに変更されることがあります。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- MSCI各種指数は、MSCI Inc. が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.3%(税抜3.0%) を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ●料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に 年率1.8975%(税抜1.725%) をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に 年率0.011%(税抜0.01%) をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
❗ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

取扱販売会社一覧

※ 販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。
詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

取扱販売会社名	金融商品 取引業者	登録金融 機関	登録番号	日本証券業 協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会
岡三証券株式会社(※1,※2)	○		関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
丸三証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第167号	○			

(※1)現在、新規申込の取り扱いを行っていません。

(※2)一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター：0120-762-506 (9:00~17:00 土日祝日・年末年始を除く) ホームページ： https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	

●当資料は、ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシーの情報をもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成したものです。当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料に記載されている投資リスク、ファンドの費用等を必ずご覧ください。

